**第２１回（令和元年度）**

〇岩手県　盛岡市　(りんご)　北田晴男・北田富士子

りんごと水稲を基幹とした複合経営で、りんご295a、もも5a、水稲153aを栽培している。りんごについては、水稲作業との労力競合を防ぐため、地域の平均よりも、晩生種の比率を高めた品種構成(75%)としている。労働力は、本人、妻、後継者、後継者の妻、本人の娘の家族5人であり、共同経営者としての自覚を持ち、同じ経営目標に向かって就業条件や役割を明確化するため、家族経営協定を締結している。また、りんごの販売は消費者への直接販売が主で、販売額の約70%を占めている。

経営の基幹であるりんご栽培は、特別栽培による差別化を図るほか、全果実について蜜入りの程度をセンサーで測定しながら販売している。また、規格外品の有効活用と販売メニューの拡大のため、委託加工によるジュースやジャム、ワイン、ゼリーの商品開発を行っている。若者が憧れるような「ゆかい・ゆとり・ゆたか」な農家生活を築くことを目的として、家族でゆとりのある農業経営を実現している。また、築130年の米蔵を改装した簡易宿泊施設「蔵の宿FROG BEE」を自宅敷地内に開設し、りんごの花摘みや収穫、田植えや稲刈りなどの農作業体験を受け入れている。

りんご樹は、全てわい化栽培とし、果樹経営支援対策事業を活用して計画的に改植を実施することにより、高品質な果実を安定生産している。中でも、主力品種である「ふじ」については、食味を重視するため、全面積で葉とらず栽培を実施している。可能な限り見た目も良くするため、玉回しを2回実施し、りんご全体がむらなく着色するように注意している。また、北田氏が栽培したりんごは、特別栽培による樹上完熟りんごとして盛岡市のプレミアムブランド品の認定を受けている。